

開発状況の見える化を実現する 開発管理システム

長江雅史* 川北泰之*
今村 剛**
篠崎順子**

Development Management System : Visualization for Status of Development

Masashi Nagae, Tsuyoshi Imamura, Junko Shinozaki, Yasuyuki Kawakita

要 旨

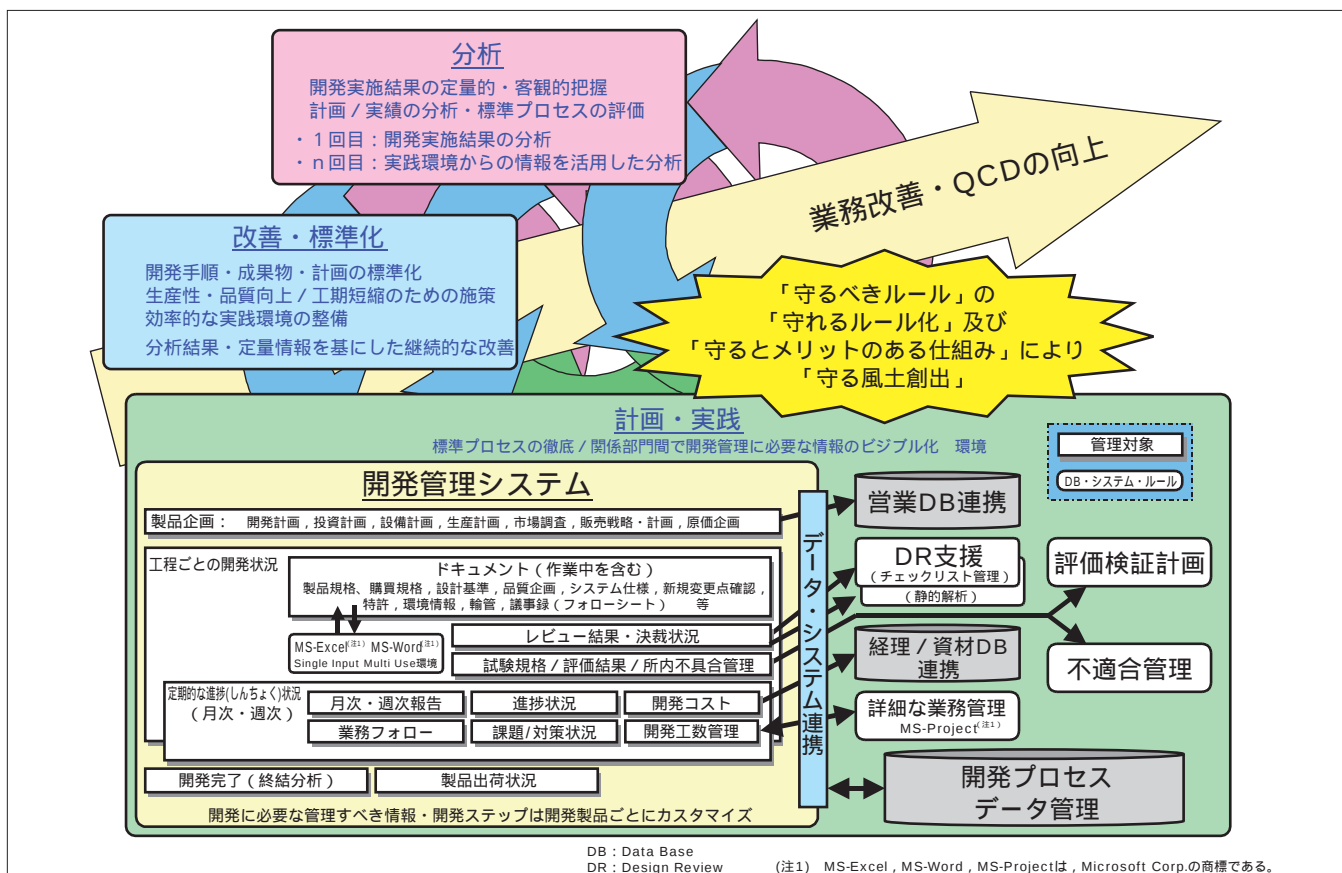
近年、製造業では、世界的規模でのコスト競争の激化とともに、顧客要求に応じた高品質の製品を短期間に開発し市場に提供していくことが求められている。このような状況の中、製品開発の現場では、この要求を満足するため、開発マネジメント力の強化が切望されている。

そこで、開発マネジメント力の強化により高品質の製品を短期間に開発することをねらいに、“開発の見える化”による開発フロントローディング活動を推進している。この活動の中で、製品開発における品質評価のタイミング（ホールドポイント）を中心に、開発状況と開発成果物を関係部門間（設計、品質管理、工作、その他部門）で統合的に共有する開発管理システムを開発した。

この開発管理システムにより、リアルタイムに見える化した情報を活用し、適切な段階での確な課題・問題点の早期特定と是正フォローが可能となり、開発の上流から品質作り込み（開発のフロントローディング化）による開発期間厳守・短縮を実現することが可能である。

また、この開発管理システムでは、設計レビュー結果等の開発成果物から開発管理に必要な情報を抽出し、開発状況に反映することで、開発管理にかかわる業務負荷の抑制を図っている。

本稿では、開発管理システムの概要と、システムを活用した開発フロントローディング活動、製品開発への適用方法等について述べる。



QCD向上に向けた開発管理への取り組みと開発管理システム概要

開発管理への取り組み内容（実業務の現状分析、開発プロセス改善・標準化、計画・実践環境の構築・適用とその継続）と改善の継続によるQCD（Quality, Cost, Delivery）向上について図示している。特に、計画・実践環境では、“開発の見える化”について、各工程で、開発状況と開発成果物を関係部門間（設計、品質管理、工作、その他部門）で統合的に共有する環境を表している。